

平成20年10月24日

国土交通省 道路局長 殿

小菅村長 降 矢 英 昭



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け、国道企第37号により依頼のありました標記の件について、別添により提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

山梨県 小菅村

道路行政は、高齢化や少子化が急速にしている山間過疎地域にとって、地域間格差を解消し、活力ある地域づくりを推進するために一層重要なものとなっている。

道路特定財源の一般財源化が具体化されているが、国民が真に必要とする道路整備のための財源確保は極めて重要であり、特に地域間格差を解消する道路整備事業に重点をおいて欲しい。

②－１ 地域の現状と抱える課題

山梨県 小菅村

○現状

周囲を１０００メートル以上の山々に囲まれた本村は、県内の隣接市の中心地まで約１時間がかかり、台風時などは、何日か陸の孤島となることもあった。

そんな中、大月市と本村を結ぶ国道１３９号に松姫トンネルを開設し、平成２４年の完成を目指している。開通すると大月市の中心地まで３０分で通行できる様にもなり、冬の積雪による通行止めも解消される。

また、県道上野原～丹波山線は、狭隘箇所も多く、通行に支障を来たす箇所が多い、上野原市の西原・櫛原の狭隘箇所の解消を急いで欲しい。

○課題

- ・松姫トンネルの開通に合わせて、村内の道路の狭隘部の改良を進めなければならない。
- ・県道上野原～丹波山線の狭隘箇所の改良は、地権者の理解が得られないことにあると聞いている。土地の所有者は、村外の方々であるため、村として取組みも難しい状態となっている。

②ー② 地域の目指すべき将来像

山梨県 小菅村

国道139号松姫トンネルの開通、県道上野原～丹波山線の早期改良には、村民の大きな期待が寄せられている。

多摩川源流の村として、地域の自然や文化など地域資源を活かした交流による地域づくりをすすめているが、都会から来村する時に道路が狭くて大変、大型観光バスの乗り入れは難しい状況となっている。

交流の村づくり進める上で、道路整備は極めて重要な課題となっている。

また、道路整備により大月市や上野原市への通学や通勤が容易になる。多摩川の源流の自然豊かな小菅村で生活を謳歌できる環境整備には、道路整備が喫緊の課題となっている。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待効果や評価等）

山梨県 小菅村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域の活力の向上	・国道139号（松姫トンネル）の開設 ・県道上野原～丹波山線の改良	職場の乏しい本村にとって、近隣市へ通勤できる道路環境の整備が必要であり、早期完成を目指すことで、若者の定住にも繋がり、地域の活力向上が図れる。	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	・国道139号（松姫トンネル）の開設	国道139号、大月市への台風や積雪時の通行止が解消され、防災面でも強化される。	
・少子・高齢化社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	・国道139号（松姫トンネル）の開設	大月方面への高校通学が可能となり、これまで下宿やアパート暮らしをしていた子どもたちが、親元から高校へ通えるようになり、親の経済的負担も解消できる。	